

6月のテキゴト

6月3日(土) いずみ自然塾「私の植物たち」

「いずみ及び高麗川土手」が観察場所ということで、参加者、ボランティアとともに、昨夜の雨が朝まで残っていたので、誰も外には出ないだろうなという気持ちで集まりました。

しかし、皆さんがいずみに参集し始めると、空の雲に晴れ間が見えてきました。うれしい気持ちと足元を心配する気持ちが入り混じりましたが、フィールドに出る喜びの方が勝り、出て行くころには晴れ間も見え始めました。

いずみを出て高麗川の河川敷までテクテク…と思いきや、いずみの脇の花壇に生きている草花に、中澤先生の目がキラリと光り、次から次へと「いつも見かける草」に個性を見出していただきました。まず、シロツメクサ(クローバー)の咲いている時は上向き、終わると下向きになる。ネズミムギは牧草。ギシギシ、オオバコ、ツボミオオバコ、ワルナスビ、アカバナユウゲショウ、ハハコクサモドキは帰化植物、チチコクサは固有種、ウラジロチチコグサは帰化植物、ニワゼキショウ、カタバミ…まだまだ沢山あります。

名前だけではなく、名前の由来なども次から次へと中澤先生の知識爆発です。なんとその花壇や周辺で約1時間が経過、どうしよう高麗川河川敷まで行かなくては！焦ってしまい、中澤先生を少し急がせてしまいました。でも、普段、歩きながら長い行列ができ講師の話が十分に届かない時に比べ、参加者も気軽に「これは何ですか」とやり取りができました。

「雑草」達にスポットライトが浴び、それぞれの個性を紹介していただいたことで改めてこの小さな花壇にもたくさんの種類の植物が共生し、季節に応じて成長し、花が咲き、種ができ生命のサイクルが廻っていることを実感しました。

また、たくさんの種類の植物があり、子供のころに通称で呼んでいた花の正式名を聞いて「花の名前にしては変だ」と思っていた疑問も解消されました。

ぺんぺん草はナズナの仲間で、種が三味線のパチに似ていることからや、ヨモギが外来種である、カシワの葉の大半はロシア・北朝鮮からの輸入品、桜餅の葉はオオシマサクラである。などまだまだ沢山あり書ききれません。また木の葉のにおい、手触りなども体感しました。これからも中澤先生と一緒に散歩したら楽しいだろうなと思いました。中澤先生が植物仲間と観察会をすると、集合場所の駅からすでに観察が始まり、目的地に向けて出発までに1時間以上かかってしまうのが常とお聞きし、「植物を楽しむ」奥深さを実感しました。



季節を変えて中澤先生と私の植物(なかま)たちと会いに行きたい!と思いました。K.Y